

インドモンスーン復元のためのベンガル湾掘削 (IODP Exp. 353)

Drilling in the Bay of Bengal for reconstruction of the Indian summer monsoon variability

*山本 正伸¹、臼井 洋一²、浦本 豪一郎²、安藤 卓人³、Clemens Steven⁴、Wolfgang Kuhnt⁵、LeVay Leah⁶
、 IODP Exp 353 Scientists

*Masanobu Yamamoto¹, Yoichi Usui², Uramoto Go-Ichiro², Takuto Ando³, Steven Clemens⁴, Kuhnt Wolfgang⁵
, Leah LeVay⁶, IODP Exp 353 Scientists

1.北海道大学大学院地球環境科学研究院、2.海洋研究開発機構、3.北海道大学大学院理学研究院、4.ブラウン大学、5.クリスチャンアルブレヒト大学キール、6.テキサスA&M大学

1.Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, 2.JAMSTEC, 3.Graduate School of Science, Hokkaido University, 4.Brown University, 5.Christian-Albrechts-Universitat zu Kiel, 6.Texas A&M University

インド夏期モンスーンはインド亜大陸に降雨をもたらす、降水は河川を經由してベンガル湾に流れ込む。したがって、ベンガル湾の古塩分や懸濁物の河川流出物量等を復元することにより過去のインドモンスーン変動を理解することができる。IODP第353節掘削航海 (iMonsoon; 2014年11月末から2015年1月末) では過去のインドモンスーン変動を復元することを主目的として、ベンガル湾およびアンダマン海の6地点において堆積物採取のための掘削が実施された。

サイトU1443 (Ninetyeast Ridge) では白亜紀に遡る遠洋性堆積物が得られた。サイトU1444 (ベンガル湾中央部) では中新世に至るタービダイト層を主体とする堆積物が得られた。サイトU1445およびU1446 (ベンガル湾インド沖) では、それぞれ中新世および中期更新世に至る半遠洋性堆積物が得られた。サイトU1447およびU1448 (アンダマン海) では、中新世に至る遠洋性堆積物が得られた。

キーワード：ベンガル湾、IODP第353節航海、インドモンスーン

Keywords: Bay of Bengal, IODP Exp. 353, Indian monsoon